

学部のCP－学科のCP①

学部 CP	学科 CP①	
<p>理工学部では、幅広い教養や理工学全般の知識に加え、専門性の高い知識及び情報の収集・発信に関する知識を主体的に修得すること、また、それらを科学技術業界や地域社会へ活用し、貢献できる人材の育成を目的とし、教養を養成する基本教育科目、理工学全般の基礎的な知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識と技術、論理的な思考力を養成する専門展開科目を中心とするカリキュラムを展開する。</p>	食環境学科	<p>食環境学科では、食と環境に関する幅広い知識を主体的に修得し、科学の基礎知識に根ざした情報収集力・情報分析力・論理的思考力を確実に身につけ、食環境の諸問題への取り組みを通じて社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。この目的を果たすために、自然科学全般と人文・社会科学の科目から構成される基本教育科目、食環境分野の基礎知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識と技能、論理的な思考力を養成する専門展開科目、創造的思考力と研究遂行能力を養成する専門研究科目から構成されたカリキュラムを展開して、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p>
	生物科学科	<p>生物科学科では、生物科学全般に関する幅広い知識を主体的に修得し、データに基づいて分析する力及び論理的に思考する力を確実に身につけ、それらを社会へ発信して活用、貢献できる人材を育成することを目的とする。この目的を果たすために、自然科学全般と人文・社会科学の科目から構成される基本教育科目、生物科学分野の基礎知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識と技術、論理的な思考力を養成する専門展開科目、創造的思考力と研究遂行能力を養成する専門研究科目から構成されたカリキュラムを展開して、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p>
	機械工学科	<p>機械工学科では、機械工学分野に関する幅広い知識と技能を主体的に修得し、ものづくりを中心とした機械産業の諸課題を探究できる論理的かつ創造的な能力を実践的に身につけ、それらを活用して社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。この目的を果たすために、自然科学全般と人文・社会科学の科目から構成される基本教育科目、機械工学分野の基礎的な知識を養成する専門基礎科目、応用領域や関連領域に関する専門性の高い知識と技能、論理的な思考力と問題解決能力を養成する専門展開科目、創造的思考力と研究遂行能力を養成する専門研究科目から構成されたカリキュラムを展開して、次の方針に基づいて編成する。</p>
	情報電子工学科	<p>情報電子工学科では、情報・電子技術を駆使して、高度情報通信社会の諸問題に柔軟に対応し、新しい社会の構築に貢献する技術者の育成を目的とする。この目的を果たすために、自然科学全般と人文・社会科学の科目から構成される基本教育科目に加えて、情報・電子分野の技術を駆使するために必要な専門基礎科目および専門展開科目、創造的思考力と研究遂行能力を養成する専門研究科目から構成されたカリキュラムを展開して、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p>
<p>経営学部では、経営学全般の幅広い知識を主体的に修得し、それらを企業や社会の運営・管理に活用することのできる人材を育成する。この目的を果たすために、経営学全般の基礎的な知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識と技術、論理的な思考力を養成する専門展開科目を中心にカリキュラムを展開する。</p>	経営学科	<p>経営学部では、経営学全般の幅広い知識を主体的に修得し、それらを企業や地域社会の運営・管理に活用することのできる人材を育成する。この目的を果たすために、経営学全般の基礎的な知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識と技術、論理的な思考力を養成する専門展開科目を中心にカリキュラムを展開する。</p>
<p>人間学部では、人間が創り出した文化と人間の原点である教育を柱とする人間の理解に関する知識を主体的に修得し、それらを活用して地域社会の発展と向上に貢献できる人材の育成を目的とし、文化、教育に関する基礎的な知識を養成する専門基礎科目、より専門性の高い知識と技術、論理的な思考力を養成する専門展開科目を中心にカリキュラムを展開する。</p>	人間文化学科	<p>人間文化学科では、人間が創り出した文化を言語、芸術、生活、社会の4側面からとらえ、今日的文化状況や文化構造に関する知識および関連する技能を修得することにより、地域社会の創成や文化振興に貢献できる人材を育成することを目的とする。この目的を達成するために、幅広い教養と文化学に関連する専門的知識を修得する科目、文化に関する各種情報を収集・分析し、その成果を的確に情報発信する能力を身に付ける科目、地域の文化振興に主体的に取り組む態度や志向性を涵養する科目、文化に関わる研究テーマについて調査・分析・考察を行い、それを一定の成果としてまとめ上げる能力を育成する科目により、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p>
	人間教育学科	<p>人間教育学科では、保育・教育に関する幅広い知識と基本的技能を主体的に習得し、現代社会における保育・教育の諸課題の解決に創造的、実践的に取り組む能力を身につけ、保育・教育の発展に寄与できる人材を養成することを目的とする。この目的を果たすために、保育・教育学の知識を養成する専門基礎科目、専門性の高い知識や技能、また論理的、創造的に思考する能力を養成する専門展開科目を中心にカリキュラムを展開し、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p>

食環境学科のCP②

教育上の目的	養成する人材	DP	CP②	授業科目	
<p>理工学部食環境学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「理工学を基盤とした食品・環境分野」とし、「幅広い教養に支えられた豊かな人間性と社会性と高い職業観、並びに生涯にわたり自発的な学習を継続するための能力を養うとともに、自然科学の基礎的な知識の習得のもとに、食環境分野の専門知識と実験・分析技術、論理的思考力などを食環境の諸問題の解決のために活用できる創造的能力を育てる」ことを教育上の目的とする。</p>	<p>食環境学科では、「社会の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性を有し、食と健康、食の安全、食糧および食品の生産・加工技術に精通し、食を支える健全な自然環境の保全・再生・修復のための知識と技能を有し、将来にわたって学び続けながら食環境の諸課題に主体的・継続的に取り組むことにより社会の発展に貢献できる人材」を養成する。</p>	<p>食環境学科では、次に掲げる四つの能力、すなわち、幅広い教養と専門知識、情報収集力と情報発信力および専門的技能、社会諸課題に取り組む姿勢と主体的行動力、創造的思考力と研究遂行能力、を確実に身につけている者に学士(工学)の学位を授与する。</p>	<p>【幅広い教養と専門的知識】 ①食と環境という普遍的な課題に取り組むために必要な自然科学・社会科学・人文科学全般にわたる幅広い教養を備えている。また、理学分野とくに生物・化学の基礎的知識と食品科学・環境科学分野の基本的な専門知識を体系的に理解している。</p>	<p>①-1 幅広い教養と異文化理解、豊かな人間性を涵養するための、社会科学、人文科学、外国語に関する科目を配置する。</p>	<p>日本の歴史② 世界の歴史② 異文化理解の人類学② 哲学一知の起源一② 芸術と文化② 日本文学へのいざない② 心理学一心の科学一② 社会学の世界② 法と社会② 法と人権② 経済と社会② 地理学-身近な地域から世界まで-② 地域と政策② 中国語 AI② 中国語 AII② 中国語 BI② 中国語 BII② フランス語 AI② フランス語 AII② フランス語 BI② フランス語 BII② ドイツ語 AI② ドイツ語 AII② ドイツ語 BI② ドイツ語 BII② ハングル AI② ハングル AII② ハングル BI② ハングル BII②</p>
			<p>①-2 自然科学全般に関する基礎知識及び専門教育の基礎となる理数系科目、並びに人と自然の関係を理解するための科目を配置する。</p>	<p>基礎化学A② 基礎化学B② 基礎生物学A② 基礎生物学B② 基礎物理学A② 基礎物理学B② 基礎数学② 数学② 理工数学② 化学② 生物学② 物理学② 生化学② 無機化学② 有機化学② 微生物学② 運動と波動② 熱力学② 食品微生物学② 分子生物学② 生命と地球② 物質とエネルギー② 健康科学と身体運動② 生活習慣と健康管理②</p>	
			<p>①-3 食品科学・環境科学分野の基本的な専門知識及び技能を修得するための科目、並びに食と環境の応用領域や関連諸分野の知識を総合的かつ体系的に理解するための科目を配置する。</p>	<p>高分子化学② 水質環境工学② 化学環境学② 多様性生物学② 食品成分の化学② 環境放射能計測学② 動物生理学② 食環境特別科目Ⅲ② 食環境特別科目Ⅳ② 食と感覚の科学② 食品機能科学② 食品加工学② 食品製造技術工学② 生態学② 植物機能形態学② 動物解剖学② プランクトン学② 健康と食生活論② 魚類生理学② 生物環境工学② 水質浄化工学② 細胞組織学② 海洋動物発生学② 栄養学② 植物系統分類学② 水環境の物理学② 食品レオロジー② 水圏微生物学② 食品衛生学② 遺伝子工学② 酵素化学② サプリメント論② 食品寄生生物学② 淡水資源学② 生物環境統計学② 極限環境の生物学② 植物生態学②</p>	
			<p>【情報収集力と情報発信力および専門的能力】 ②食と環境の分野における複雑で広範な問題に対処するため、ICTを用いた情報の収集・分析や化学・生物学の手法による定量的実験が行える。調査・研究で得た情報を複眼的・論理的に分析し表現し、適切かつ効果的に他者に発信できる。</p>	<p>②-1 食環境分野における分析技術や実験技術・数的手法を修得する科目、職業・社会生活で必要となる汎用技能を養成する科目、情報を数量的・統計的に収集・整理・分析する技能と論理的思考力を養う科目を配置する。 ②-2 科学情報を適切かつ効果的に活用・伝達できるサイエンスコミュニケーション能力および的確な判断により問題解決できる力を養成する科目を配置する。</p>	<p>基礎統計学② 環境調査法② 環境放射能計測学② 生物環境統計学② 分析化学② 食品分析化学② 生物学実験② 化学実験② 食環境実験Ⅰ① 食環境実験Ⅱ① 食環境学実習Ⅰ① 食環境学実習Ⅱ① 食品分析実習① 食品工学実習① 水環境学実習① 応用数学② 解析学② 情報活用法Ⅰ② 情報活用法Ⅱ② 情報社会論② 日本語技法 A② 日本語技法 B② 英語 A② 英語 B② 英語 C② 英語 D② 英語コミュニケーションA② 英語コミュニケーションB② 英語コミュニケーションC② 英語コミュニケーションD② 食環境学演習Ⅰ① 食環境学演習Ⅱ①</p>
			<p>【主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢】③食と環境の諸問題に取り組むことの社会的意義を理解し、強い責任感と高い倫理観を持って積極的に社会と関わりを持つ主体的行動力を持つ。食とも環境の問題の普遍性・重要性を理解し、将来にわたって対処できるよう生涯にわたり学び続けることができる。</p>	<p>③-1 食の安全と品質保証に関する科目及び自然環境の保全・再生・修復に関する科目、並びに生物資源の有効利用などの社会的活動を行う上で必要となる倫理観や社会観を養成する科目を配置する。 ③-2 食と環境に係る諸課題に主体的取り組み、社会の持続・発展に関与する意欲と態度、及び生涯にわたり主体的に学び続ける自己管理能力を養成する科目を配置する。</p>	<p>食料問題と資源② 食品流通と品質保証② 環境と科学② 法と社会② 法と人権② 経済と社会② 地域と政策② 生活習慣と健康管理② 衛生行政学② 環境衛生学② 公衆衛生学② 食品衛生学② 衛生行政学② 保全生物学② 野生動物保護論② キャリア設計② キャリア開発② キャリア研究② 国際体験研修② フレッシュマンセミナー④ いしのまき学② 復興ボランティア学② ボランティア論② ボランティア演習② 総合科目② 食環境見学A① 食環境見学B① 食環境特別科目Ⅰ② 食環境特別科目Ⅱ② 食環境特別科目Ⅲ② 食環境特別科目Ⅳ②</p>
			<p>【創造的思考力と研究遂行能力】 ④食や環境と人間活動に係る諸問題について自ら課題を探求できる創造的思考力および実践的な研究遂行能力を習得している。</p>	<p>④-1 食・環境分野の科学研究に関する総合的な学習経験を通して、人間活動と食・環境に係る諸問題について自ら課題を探求できる創造的思考力及び実践的な研究遂行能力を身に付ける科目を配置する。</p>	<p>食環境学実験Ⅲ① 食環境学演習Ⅲ① 卒業研究⑥</p>